



獨逸新聞

第五号

如何ヲ論ス
獨逸國ニ於テ煙草專賣法ヲ施行スレ





獨逸國

第三ノ上

我カ輩ハ既ニ前日ノ紙上ニ於テ我カ國ノ贖物ニ賦課スル稅額ト人民ニ必要ナル品物ニ賦課スル稅額トヲ比較シテ以テ讀者ニ示シ其贖物ニ賦課スルニ必ス簡稅法ヲ以テセザルベカラザル所以ノ理ヲ説明シ中ニ就テ煙草稅ノ如キハ將來之レヲ非常ニ增加セザルベカラサル可キ旨ヲ論述シタリキ

天正十一年四月
牧野 照譯

然ルニ目今我カ政府カ各種ノ品物ニ賦課スル所以ノ簡稅ハ是レニ適合ス可キモノナル我カ否ヤノ問題ニ至リテハ我カ輩ハ之レニ答ケルニ決シテ一々正理ニ違應スベキ旨ヲ以テスルヲ能ハザルモノ有リト茲ニ之レ等ノ論ハ今茲ニ論述スベキ事アラサレハ敢テ贅セス

上ニ論ヤレ如ク贅物ニ税ヲ課賦スルニハ必ス重税ヲ以テセザ
ルベカラザル所以ノ理明瞭ナレハ乃チ煙草ニ税ヲ課スルニ
必ス重税ヲ課セザルベカラザルノ理ナリ其故如何トナレハ近
來世上一般ノ論者カ蓋々論スルカ如ク煙草ナルモノハ決シテ
人民ニ平常缺クベカラザル必需品ニ非ズレテ只ニ人民ノ奢侈
ニ屬スル品物タルヲ明カナレハナリ然ルニ輓近我カ國ノ状態
ヲ洞察スルニ煙草ノ消費者次第ニ増負スルカ故ニ宜シク煙草
ノ税法ヲ改革シテ以テ速カニ之レカ処分ヲ為サザルベカラザ
ルノ情勢アルナリ

一般ニ間税ト稱スル諸税ノ種類ヲ尽ク分画シ各層ニ就テ論究
探討スルハ其一部分タル煙草税ナルモノハ他ノ諸品物ニ賦
課スル所ノ間税ト大ニ異ニスルモノアリ其故如何トナ
レハ砂糖或ハ茹菲又タハ食塩等ノ如キ品物ニ賦課スル所ノ間

税ハ只國內一般人民ノ頭數ノ多寡ニ由テ納税ノ額ニ多寡ヲ生
スルモノニシテ決シテ老弱男女ノ差異アルカ為メニ其ノ納税
ノ額ヲ増減スルヲナシト雖モ煙草税ノ如キハ老弱男女ノ差別
アルニ從ツテ大ニ納税ノ額ニ多寡ヲ生スルモノトナレ
ハ即チ煙草ノ消費者タル多クハ人民中ノ壯男ノミアルヲ以テ
ナリ

我カ國ニ於テ自今煙草税ヲ非常ニ増加セント欲セハ乃チ煙草
專賣ノ法ヲ設ケザルベカラズ故ニ我カ輩ハ今マ此ノ煙草專賣
法ノ利害得失ヲ下文ニ於テ畧陳セントス
抑モ煙草税ヲ非常ニ増加センニハ必ス煙草專賣ノ法ヲ設ケザ
ルベカラザル所以ノ理由ハ即チ他ナレシ此ノ專賣ノ法ヲ設ケル
ニアラザレハ決シテ各種ノ煙草ヲ上等ト下等トニ區別シテ
等ノ品物ニ非常ノ重税ヲ賦課スルガ終テ日不アルヲ得ルヲ能

ハザル有ルヲ以テノ故ナリ
我カ輩カ上ノ如ク煙草專賣ノ法ヲ設ケテ煙草稅ヲ非常ニ増
セザルベカラサル可キ者ヲ論スル時ハ讀者必ス之レカ為メニ
シテク疑惑ヲ生スルナル可シ然レモ現今我カ國實際上ノ有様
ヲ洞觀スルハ則チ今マ我カ國ニ於テ煙草稅ヲ非常ニ増加セ
ザルヲ得ザル情勢ノ在ルアリ故ニ讀者若シ方今我カ政府カ國
内ノ諸品物ニ賦課スル所ノ諸稅ノ有様ヲ通觀シテ以テ他ノ諸
品物ニ課スル諸稅ヨリモ全ク贅物ニ属スル煙草ニ課スル稅ノ
及テ甚タ輕キヲ覺ラハ乃チ余カ論ノ甚タ虛妄ナラザルヲ得
知ス可シ
現今我カ獨乙國ニ於テ施行スル所ノ煙草稅徵募ノ方法ヲ將來
ニ保存シ更ラニ之レヲ更改セシテ今ヨリ煙草稅ヲ非常ニ増
加セント欲スルハ甚タ至難ノ事ナリ抑モ我カ國ノ煙草稅徵收

法ハ即チ國內ニ於テ煙草ヲ耕作スル所ノ產生者ニノミ課稅ス
ルノ法ニシテ又チ其外國ヨリ輸入スル所ノ煙草稅ナルモノハ
其製品ト未製品トヲ區別シテ之レヲ適應シタル輸入稅ヲ賦課
スルノ法ナリ然ルニ此ノ如キ從來ノ方法ニ於テ自今我カ國ノ
煙草稅ヲ非常ニ増加スルヲ得可キ我否ヤノ問題ハ甚タ緊要ナ
ル疑件ナルヲ以テ我カ輩ハ此ノ一大疑問ニ向テ充分ニ論理ヲ
尽サントテ希望ス而シテ我カ輩ハ此ノ問題ニ答フルニ當テ先
ツ左ノ利害得失ヲ闡陳セザルベカラス
只ニ皮相ヨリ論スルハ我カ獨乙國ニ於テ從來施行スル所ノ
煙草稅徵收ノ方法ハ万民ニ煙草產生ノ自由煙草賣買ノ自由煙
草製出ノ自由等ヲ許スル法ニシテ實ニ財政ノ本意ニ適合セル
良法ノ如シト雖モ之レヲ古來ノ實驗上ニ徵スルハ此ノ如
法ナル為メニ及テ大弊害ヲ來セリテ數々之ヲアリクナリ

在昔我々國ノ學者中ニ於テモ煙草稅收入ノ額ニ増加セシメ
企謀セシモノ絶テ之レ無キニハアラズ殊ニ南獨逸國ノ如キハ
此ノ如キ學者ノ論ヲ大ニ主張シテ之レヲ實地上ニ施行セシ
テ企テタリシカニ此ノ國古來ノ煙草稅徵募ノ法ヲ更テニ變改
セシテ漫リニ旧法ヲ墨守シテ增稅ヲ施行セシテ一ヲ謀リタリ
シカ故ニ遂ニ其志ヲ達スルヲ能ハザリシナリ
南獨逸ニ於テ煙草稅收入ノ額ヲ増加セシメテ一ヲ企謀セシ
テ去ルヲ甚々遠シト雖モ當時ノ學者中ニ若シ贅物ニ課スル稅
額ト人民ニ必用ナル品物ニ課スル稅額トヲ比較シ大ニ其不同
ナル有様ヲ示シテ以テ確乎不惑ノ說ヲ立テ旧法ヲ改革スルノ
論ヲ主張スルモノアリシナラハ或ハ此ノ增稅ノ說ヲ實際上ニ
施行スルニ至リタルナル可シト雖モ惜カナ當時ノ諸學者中ニ
確實ノ說ヲ述フルモノアラザリシカ故ニ終ニ煙草稅徵募ノ法

ヲ改革メ煙草稅ヲ増加スル地位ニ達スルヲ能ハザリシナ
リ
我々獨逸國ニ於テ從來煙草稅ヲ其產生者ニ録賦シタル方法ヲ
記載シテ讀者ニ示スヲ即チ左ノ如シ
一千八百六十八年五月二十有六日ニ設定シタル稅方ハ即チ其
煙草ヲ耕作スル所ノメーテル四方ノ地面ヨリ我々ニ尺三寸三
分強ニ當リ毎年六十ペンニシテ租稅ヲ收入スルノ法ナリ但シ
家屋ニ接近シタル狹隘ノ地方ホニテ未タメーテル四方ニ至ラ
サル所ノ地面ニ煙草ヲ耕作スルモノハ尽ク之ヲ無稅トス
暴霰寒風洪水火災ホノ如キ非常ノ禍害アリテ煙草ニ凶作アル
ハ其禍害ノ多ク少クニ依リテ或ハ全ク煙草稅ヲ放免シ或ハ定稅ノ
三分ノ二ヲ減シ或ハ定稅ノ三分ノ一ヲ減スルヲアルヘシ是故
ニ我々國從來ノ煙草稅ナルモノハ之ヲ其形貌ニヨリ

全ク尺地稅ト相異ナル所ナキナリ
 我國古來ノ形勢表ヲ点檢スルハ則チ右ノ如キ方法ヲ以テ再
 年政府ニ徵募シタル煙草稅收入額ノ數年間ノ平均ヲ得知スル
 容易ナリ而シテ其平均ハ即チ尤モ乾燥シタル煙草葉一セン
 ト子ル^{百斤強ニ當ルナリ}我カニ付テ每歲ニマルク^{マルクハ凡}
 五^五支前後^ニ稅ヲ課賦シタルノ理ナリ去レ^レ實際ニ^ニ於テハ
 煙草稅收入ノ額決メ此ノ如キ割合ニハ至ラザリキ其故如何ト
 ナレハ毎年或ハ火災或ハ水難又タハ寒風暴霰^ノ禍害アリテ
 煙草稅收入額ヲ幾分カ減殺シタルヲアレハナリ
 又チ我カ國ニ於テ從來外國ヨリ輸入スル所ノ煙草ニ賦課スル
 輸入稅ノ法ハ決シテ其品物ノ良否如何ヲ論^ハス只烟草ノ種類
 各種ニ區別シ其各種類ニ應^ニシテ課稅スルノ法ナリ即チ其区
 別ヲ設^テテ煙草ニ輸入稅ヲ課賦スル^ト左ノ如シ

未製ノ葉煙草

未製ノ莖煙草

右ノ兩種類ニ賦課スル輸入稅ハ即チ一セント子ル^{凡ソ我カ}
 付テハ十二マルク^{見ユ}ノ割合ナリ

薰煙草

嗅煙草ノ未製品

粉煙草

右ノ三種ノ品類ニ課スル所ノ輸入稅ハ即チ一セント子ル^{見ユ}
 付テ三十三マルク^{出エ}ノ割合ナリ

卷煙草

喫煙草

右ノ二種ノ煙草輸入稅ハ即チ一セント子ル^ニ付テ六十マルク
 ノ割合ナリ

以上列示スル所ノ煙草輸入税ノ法ヲ以テ之ヲ内國ノ煙草税ニ
比スル所ハ大ニ其趣キヲ異ニスルモノアリテ輸入税ノ區別
自カラ綿密ナルヲ宜クモベシ
我々獨逸國ニ於テ從來外國ヨリ輸入スル所ノ各種ノ煙草ニ課
スル輸入税ノ平均ハ凡ソ煙草百ニ付テ十五乃至十六ノ輸入税
ヲ賦課スルリ割合ナリ
上ニ陳述セシ如ク我内國産ノ煙草ニ賦課スル所ノ煙草税ノ平
均ハ其尤ミ乾燥シタル煙草葉一セント子ルニ付テ凡ソ二
ク見ユニノ割合ナレハ之レヲ彼ノ輸入税ト比較スル所ハ則チ其
輕重得テ知ル可キナリ
右ノ如ク我國ニ於テ現今内外ニ施行スル所ノ煙草税收入ノ方
法ト其收入ノ額トヲ綿密ニ陳述スル所ハ則チ讀者ト雖モ必ス
我輩ク前日ノ煙草税論ノ第一ニ於テ辨シタル論說ノ果シテ靈

妄ナラサルヲ明知ス入
抑ミ経済学ノ本旨ニ從テ現今我國ニ於テ贅物ニ課スル所ノ税
ト人民ニ必用ナル品物ニ課スル所ノ諸税トヲシテ其權衡宜シ
キヲ得セシメンカ為メニハ必ス方今実施スル所ノ煙草税ヲ四
倍乃至五倍増加セサルベカラス而シテ今正ニ此ノ如ク非常ニ煙
草税ヲ増加セント欲セハ必ス我國從來ノ煙草税徵募ノ方法ヲ
更改ノ更ニ新法ヲ設クルニアラサレハ決シテ其目的ヲ達スル
能ハサルナリ
然ルニ又々論者アリテ現今我々獨逸國ヨリ諸外國ニ輸出スル
所ノ煙草ノ額ノ非常ニ夥多ナル所以ノ者ハ全ク我國ノ煙草税
ノ至テ輕キニ根基スルモノナリ然ルニ自今若シ此ノ煙草税ヲ
レテ非常ニ増加ノ四倍乃至五倍ニ至ラシムルカ如キト有ル
ハ乃チ全ク煙草輸出ノ道ヲ絶滅スルノ理ニ甚タ不

キ音ヲ辨論スルト虽モ此ノ論ノ如キハ素アリ採ルニ
ノ謬説ト云ハサルヲ得ス其故如何トアレハ仮令自今我國ニ於
テ新法ヲ設ケ内國ノ煙草稅ト外國ヨリ輸入スル處ノ煙草稅ト
ヲ非常ニ増加スルヲアリト虽モ煙草ノ輸出稅ヲ全ク廢止スル
ハハ決メ論者ノ説ノ如ク煙草輸出ノ額ヲ大ニ減サスルニ至
ラサルヲ明クアレハナリ加之此ノ如ク内國ノ煙草稅ト外國ヨ
リ輸入スル處ノ煙草稅トヲ非常ニ増加スル法ヲ設クルハ乃
チ自國ノ煙草ノ消費者次第ニ減サメ外國ノ煙草ヲ輸入スルノ
額モ亦タ自ラ減殺スルニ至ルヲアル可シ之レ我カ輩カ煙草稅
ヲ改革ノ以テ非常ニ其稅額ヲ増加センヲ瞻望勤企スル所以ナ
リ

凡ソ煙草專賣ノ法ヲ設ケ非常ニ煙草稅ヲ増加スルハ國內ニ
於テ煙草ノ上等品ヲ消費スルモノ次第ニ減サレテ大抵未製品

ノ消費者而已トナルニ至リテ大ニ國家ノ益利ナルヘシ方今英
國ノ如キハ真ニ此ノ益利ヲ達シタルモノト云フヘシ

英國一千八百七十六年ノ關稅表中ノ煙草稅ニ關スル條目ヲ抄
録メ以テ讀者ニ示ス即チ左ノ如シ

内國ニ於テ未製ノ煙草ヲ消費シタル額ハ即チ左ノ如シ

四千七百六十八万九百二十七ポント

右ニ未製ノ煙草ニ賦課シタル稅額ハ即チ次ノ如シ

一ポンドニ付テ凡ソ三シリングト一四ノ割合ナリ

但シ煙草葉ノ乾濕如何ニ應シテ右ノ割合ニ多サノ輕重
ヲ生スルヲアルヘシ

我カ獨逸國ニ於テ現今施行スル所ノ煙草稅ノ法ヲ以テ之ヲ英
國ノ良法ニ比較スルハ我カ國ノ實際上ニ必ス不便アルヲ
明クニ覺知スルニ足ルナリ

一千八百七十二年ヨリ一千八百七十六年ニ至ル迄五ヶ年間
 我政府ニ収入シタル煙草税ノ平均ハ毎年煙草葉一セント子ル
 出^エニ付テ二十五マルク見^エユヲ収入シタリキ又夕英國ニテ毎
 年収入スル処ノ煙草税ハ一セント子ルニ付テ三百五十二アル
 ヲノ割合ナレハ英國ノ煙草税ノ我ク國ノ煙草税ヨリモ非常ニ
 重キトハ實ニ驚クヘキモノナリ
 上ニ論スルカ如ク我國ニ於テ内國ノ煙草税ヲ徵募スル方法ハ
 全ク地面税ニ齊シキ徵收法ナルカ故ニ決シテ煙草税収入ノ額ヲ
 自在ニ増減シテ以テ國內一般ノ煙草ノ價額ヲ左右スルヲ能ハ
 サルモノナリ
 我カ輩ハ今茲ニ數年來我カ獨逸國ニ於テ煙草耕作ノ業ニ從事
 スル処ノ人民ノ貧數ノ年々不定ニシテ其煙草産出ノ額ノ歳々
 大ニ増加減カスル形状ニ過^カシテ以テ讀者ニ示ス^ルト即チ左ノ

如レ
 一千八百六十一年ニ國內ニ於テ煙草ヲ耕作シタル地面ノ總計
 ハ即チ
 凡ソ一万四千二百五十一ヘクタールナリ
 一千八百六十四年ニ國內ニ煙草ヲ耕作シタル地面ノ廣カハ
 即チ
 凡ソ二万三千六百九十三ヘクタール
 一千八百七十一年ニ國內ニ煙草ヲ耕作シタル地面
 凡ソ一万六千四百七十九ヘクタール
 一千八百七十三年ニ國內ニ煙草ヲ耕作シタル地面ノ總計
 凡ソ二万六千四百二十ヘクタール
 一千八百七十四年ニ國內ニ煙草ヲ耕作シタル地面ノ總計
 凡ソ一万八千八百二十六ヘクタール

一千八百七十五年國內ニ煙草ヲ耕作シタル總地面ノ廣
凡ソ二万〇二百五十五ヘクタール
嘗テ世ノ經濟学ヲ講スル處ノ論士ハ我カ獨逸國ノ煙草稅徵收
ノ方法ハ全ク地面稅徵募ノ法ト等シキモノナルカ故ニ煙草ノ
產生者中ニテ其良田ノ所有主ハ煙草耕作ノ為ニ非常ノ利益ヲ
得又ク惡田ノ所有主ハ上ニ反シテ決シ其利益ヲ得ルヲ能ハサ
ルノ理ナレハ煙草稅徵募ノ法之レヨリ不可ナルハナレト辨述
シタリシカ實ニ確實正當ノ論ト云フヘシ總テ是レオノ弊害ヲ
除去セント欲マハ今ヨリ煙草稅徵收ノ方法ヲ改革シテ以テ非
常ニ之ヲ増加セサルヘカラス
煙草ノ稅法ヲ改革メ以テ非常ニ之レヲ増加シ良田ノ所有主ヲ
ノ煙草耕作ノ為メニ異常ノ利益ヲ專奪スルヲ能ハサラシムル
ハハ乃チ國內ノ良田ニ全ク貧物タル煙草ヲ耕作スルモノ自然

減少スルノ理ニシテ國家ノ利之レヨリ大ナレハナシ
抑モ煙草稅ヲ賦課スルニハ先ツ煙草專賣ノ法ヲ設ケ而シテ煙草
未製品ノ價額ヲ上中下ノ三通リニ區別シ之レニ應シテ稅ヲ課
賦スレハ則チ可ナリ例ヘハ一千八百七十一年ヨリ一千八百七
十六年ニ至ル迄五年間ニ我カ國ニ於テ稅額シタル煙草稅ノ平
均ハ凡ソ一ヘクタールノ田地ニ付テ僅カニ八百七十九マルク
ノ稅ヲ徵募シタレハ自今其工等品ニ賦課スルニハ之レニ三ヲ
乘メ一ヘクタールノ田地ニ一千六百〇十マルクノ煙草稅ヲ
賦課スレハ即チ可ナリ若シ此ノ如キ方法ヲ以テ現今我國ノ煙
草ノ稅法ヲ改更シ大ニ其徵募ノ額ヲ増加スルハ乃チ始メテ
國內ノ良田ニ贅物タル煙草ヲ耕作スルモノ次第ニ減少シテ大
ニ國益ヲ得ルノ實功ヲ奏スルニ至ルヘシ
在昔佛蘭西國ニ於テ煙草專賣法ヲ設定スルノ論感ニ及リ當

時此國ノパルラメントニ於テモ其爭論最モ激烈ナリシ其後
チ此論次第ニ勢カヲ得一千八百三十七年ニ至リテパルラメン
トノ議定ニ由テ終ニ全勝ヲ達レタリキ其以還又々該國ニ於テ
煙草ノ輸入税ヲモ非常ニ増加セサルヘカヲサルノ論甚タ感
ナリシカニ此論ノ如キハ人民中ニ其之レヲ非ナリトスルモノ
巨多ナリシガ故ニ遂ニ其実功ヲ奏顯スルノ域ニ達スルヲ能ハ
サリシハ實ニ惜ムヘキモノトス

前論ニ於テ考証スル所ハ煙草税ヲ徵收スルニ地稅徵募ノ法ト
全ク同一ナル方法ヲ用ユルノ大ニ不可ナル所以ノ理甚タ瞭然
タルヲ得ヘシ又々煙草ノ稅法ヲ改革シテ以テ煙草ニ重稅ヲ
賦課スルヲアル所ハ乃チ之レカ為メニ國中ノ煙草ヲ耕作スル
モノ次第ニ減殺シテ大ニ國益ヲ得ルニ至ルヲハ之レヲ今古ノ
實驗上ニ徵シテ我々輩ニ堅ノ保証シ毫モ疑ヲ容レザル所ナリ

然ルニ今一步ヲ退テ論スルハ反令現今直チニ我々國ニ於テ煙
草專賣ノ良方ヲ設定スルノ域ニ達セサルモ煙草税ヲ改革シテ
非常ニ之レヲ増加レ國內ノ人民ヲシテ良田ニ煙草ヲ耕作スル
ヲ能ハサラシムルヲ得ハ乃チ以テ足レリトス

今我々輩カ此ノ如ク論スル所ハ觀客ハ必ス之レカ為メニ疑惑
ヲ生スルナルヘシ然リト雖モ試ニニ彼ノ英國ノ煙草稅收額ノ
方法ヲ見ヨ此國ニ於テハ彼ノ煙草專賣ノ法ヲ施行セシテ只
ニ重稅ヲ賦課メ以テ國內ノ良田ニ煙草ヲ耕作スルノ弊害ヲ防
止スルノ法ナリト雖モ此ノ國實際上ノ有様ヲ觀察スルニ其煙
草專賣ノ法ヲ施行スル所ノ佛蘭西國ヨリモ反テ其宜シキ得
ルモノアルナリ



